

歯科インプラント(人工歯根)治療

80-2 歯科口腔科

1. 歯を失ってお悩みの方へ

あなたは歯のことで悩んでいませんか？

自分の歯を失ってから「入れ歯」を作ってはみたものの

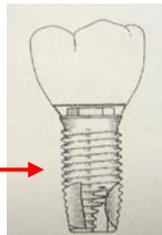
- ・ しっかり噛(か)めない
- ・ 食べ物がおいしく感じられない
- ・ 違和感が強いので、はめていない
- ・ 食事中や話しているときに、入れ歯が動いたり、はずれそうになったりする
- ・ 歯が数本残っているので「ブリッジ」にしたいけど、健康な歯をけずらなくては？

…など、あなたはこんなことで悩んでいませんか？

失った自然の歯と同じように使える新しい歯がないものかと探している方、そんな便利な歯はないとあきらめてしまった方、このような悩みを抱えるあなたのために「歯科インプラント(人工歯根)」治療を紹介いたします。

2. 歯科インプラント(人工歯根)治療とは

歯は目で見える「歯冠(しかん)」の部分とそれを支える「歯根(しこん)」から成り立っていますが、歯を失うということは歯冠を支える歯根そのものも失ってしまうことです。「歯科インプラント(implant=植え付ける)」は「人工歯根治療」ともいわれ、失ってしまった歯に代わり、あごの骨に金属であるチタン製の人工歯根を埋め込み、その上にセラミック等の人工歯冠を固定するための土台とするものです。「入れ歯」は歯ぐきの上に乗せているだけのため口の中で動きやすく、不安定で違和感も感じますが、「歯科インプラント(人工歯根)」にするとあごの骨に直接固定されて支えられます。そのために自分の歯がかつてそうであったように人工の歯で噛む振動がそのまま骨に伝わり、自然な身体の一部の様に感じるすることができます。また「ブリッジ」のように天然歯をけずるようなこともありません。



「人工歯根」と「人工歯冠」

3. 歯科インプラント(人工歯根)治療のあらまし

まずは口の中の状態を調べることから始まります。つまり、あごの骨の状態を知るためにレントゲン撮影したり、口の中の状態(残っている歯や歯ぐきの状態・口の中の衛生状態など)を診査します。もちろん、全身的な状態はどうか、タバコは吸うか、アレルギーなども確認します。口の中の状態が整ったら、いよいよ「歯科インプラント(人工歯根)」治療の開始です。

1) 第一段階「インプラント一次手術」

歯を抜くときのように、通常は局所麻酔で行う日帰り手術です。歯ぐきを切開し、「フィクスチャー」と呼ばれるネジ式の「歯科インプラント(人工歯根)」をあごの骨に埋め込みます。その後、歯ぐきを元に戻し、縫い合わせて骨と結合するのを待ちます。

2) 第二段階「インプラント二次手術」

一次手術の後 1~4 カ月後に、局所麻酔で「フィクスチャー」の頭の部分を歯ぐきから出し、「人工歯冠」をつけるための環境を整えます。もちろん、日帰りで行います。

3) 最終段階「新しい歯(人工歯冠)が取り付けられるまで」

二次手術の後しばらくしてから、型取りや噛(か)み合わせの調整、仮歯(かりば)合わせなどを行い、「フィクスチャー」の上に「人工歯冠」が取り付けられて完成です。その後は歯磨き指導などを受け、定期的診査のための通院のみとなります。

4. 診療体制について

(公社)日本口腔外科学会認定「口腔外科専門医」「口腔外科指導医」が責任をもって診療にあたりますのでご安心ください。なお、「歯科インプラント(人工歯根)」に関するご相談は毎日応じておりますので診療時間内にお気軽にご相談ください。

5. 治療費用と高度先進医療について

治療費用は基本的には自費診療ですが、本学病院では「歯科インプラント(人工歯根)」治療が高度先進医療として認可されているため、あごの複雑な状態などによっては手術以外の診療費については健康保険が適用されます。ケース・バイ・ケースのためお気軽にご相談ください。

6. 治療成績について

当病院で採用している「ブローネマルクシステム・インプラント」は40年以上の臨床経験と140万人以上の方が治療を受け、高い成功率を誇っています。1本の歯の修復においては95%近く、複数歯においてはそれ以上の成功率が発表されております。本学病院においても1998年より治療を開始し、同等以上の成功率を誇っています。